

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

- 1 日 時 令和6年8月31日(土) 10時から12時
 2 場 所 三八城公民館 ホール
 3 対象地区 三八城地区
 4 参加者 18人(地域関係者15人(民生委員、町内会など)、八戸学院大学 学生3名)
 5 開催概要

(1) 話題提供

「八戸市の高齢者の状況」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 主査兼社会福祉士 柏崎 雄介

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

(2) ワークショップ(グループワーク)

テーマ 「誰もが住みやすい三八城地区」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 立石 真司 氏

- ・自己紹介
- ・誰もが住みやすい三八城地区のために必要なことを意見交換
- ・全体共有 各グループから検討した内容について発表

【主な意見】

項目	内容
インフラ 生活環境 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の道幅を広くする。歩道を整備。車いすでも移動できること。 ・交通機関の充実。公共バスを増やす。経路・バス停を増やす。 ・ガードレールや柵を増やす。 ・街中の駐車場無料化。 ・夜間、明るくする。 ・除雪して欲しい。 ・街中に向かう坂に屋外エスカレーターを設置。 ・本八戸駅にエレベーターを設置。 ・身近にスーパーや買い物できる場所があると良い。空き店舗の活用。
町内会 近所づきあい	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で声を掛け合う。友達や話し相手を作る。顔の見える関係。 ・買い物等、近所でのたすけあい。若い人からの手助け。 ・困っていると伝わりやすい関係。 ・地域での運動会を開く。行事等を増やす。 ・町内会の活性化。加入促進。 ・町内会長も勉強しレベルアップが必要。 ・個人情報保護も必要だが、もう少し自由に情報共有したい。 ・高齢者であることを楽しむ。 ・高齢者も支える側になれるという意識。

居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館でのサロンの活用促進。 ・ 東屋やいこいの場、気軽に立ち寄れる場を増やす。 ・ 高齢者が立ち寄れる子ども食堂。
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊び場を作る。公園を増やし子ども同士の関りを増やす。 ・ 学校と協力し、子どもに声をかけやすい環境。 ・ 高齢者等が子ども達と関わる機会を作る。
イベント SNS	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等の活用。 ・ 高齢者はデジタル化への対応が難しい場合が多い。 ・ イベントを企画しても参加者が限定的。年齢層によって適した内容が異なる。 ・ 年代に関わらず、活躍できる場・出番を増やす。